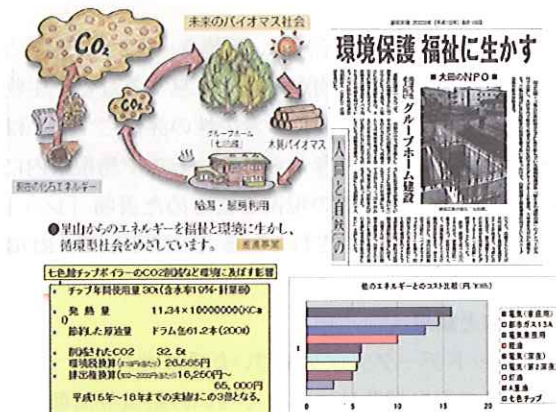
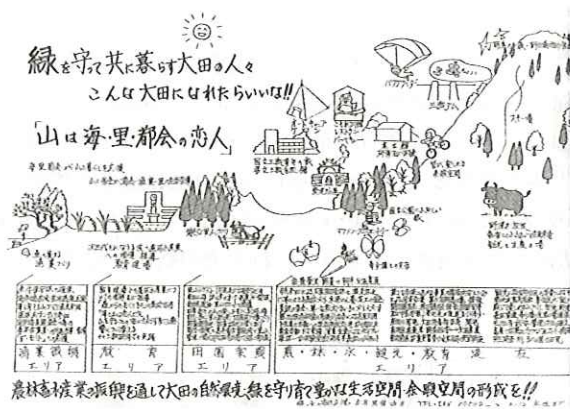


世界遺産につなげる里山保全の実践

認定NPO法人 緑と水の連絡会議

高橋 泰子



①目指したい大田市のランドスケープビジョン

当会は平成4年任意団体として立ち上げ、国立公園三瓶山をフィールドとした環境保全活動を行ってきました。人間の営みで保全される自然、いわゆる二次的自然の象徴である草原のみならず里地・里山の景観と生物多様性の保全を目的に活動を行っています。平成15年6月にNPO法人に認証されてからは従来の活動に加え、子どもの健全育成・まちづくりの推進・保健、医療又は福祉の増進と幅を広げています。

緑と水の連絡会議の里地・里山・里海保全活動



②草原・里山維持保全活動のいろいろ

草原保全から学んだ管理手法と人のつながりを生かし平成20年、世界遺産登録予定の「石見銀山」の産業遺跡に立ちあがる竹やぶを、現在のスタイルに合わせた揉み解し方で多様性に満ちたものに移行させていきたいと活動を展開しています。

③環境と福祉のリンク木質バイオマスエネルギーの地産地消・温暖化防止・林業の活性化



④げんこつ山プロジェクト (環境教育と人づくり・バイオマスの地元産業との結びつき)



⑤世界遺産を守る森づくり・ワークショップ

三瓶山から石見銀山へ・・・人の多様性が動・植物のみならず文化の多様性を育み、ふるさとの森を守っていくこととなる。